

# あなたの“想定寿命”は十分？

ダイヤ高齢社会研究財団 企画調査部長 森 義博



## “想定寿命”の平均は78歳

「あなたは何歳まで生きることを想定していますか。希望ではなく、人生設計として考えているご自身の寿命をお答えください」

これはダイヤ財団が全国の40代・50代の民間企業の正社員を対象に実施したアンケート調査の質問の1つです。回答の分布は図1のとおり。男女とも3人に1人が「80歳」と答え、全体の平均は78歳でした。

さて、皆さんはこのような質問をされたら、どうやって答えを出すでしょうか。平均寿命は何歳だったっけ、うちは長生きの家系だから平均よりは長いかな、でも食生活は褒められたものではないし……と考えを巡らせ、さらに子どもの就職、住宅ローンの完済時期など数々のしがらみが脳裏に浮かんで、なかなか答えが定まらないかもしれませんね。

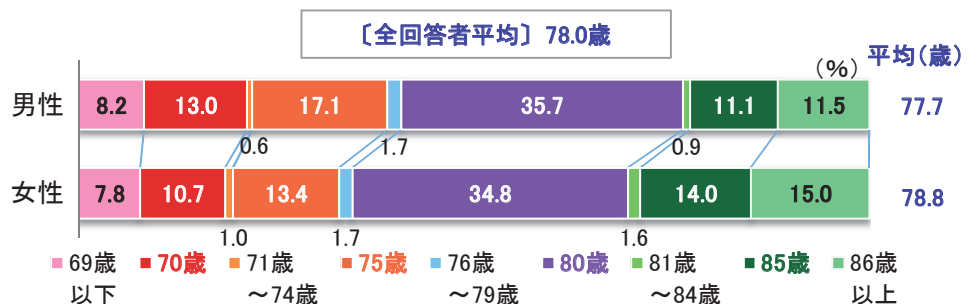
## 女性の想定寿命は平均寿命に8年足りない

アンケート結果に話を戻しましょう。一言でいうと「短い」というのが私の印象です。「80歳」と答える男性が多いことは、平均寿命を考えると想定内でしたが、女性も男性と大差ないことには驚きました。

平均寿命は男性が80.97歳、女性はそれを約6年上回る87.14歳です（平成28年簡易生命表）。ご存じ

のとおり平均寿命は0歳時の平均余命で、年齢が高くなるにつれ「年齢+平均余命」は長くなっていきます。前述のアンケートの対象者のうち50歳の人を例にとると、平均余命は男性が32.54年、女性は38.21年なので、年齢に平均余命を加えた、言うなれば50歳の人々の平均寿命は、男性が82.54歳、女性は88.21歳となります。平均寿命にさえ8年足りない女性の想定寿命は、50歳の時点でみると10年近く不足する計算になります。

日本人の平均寿命はまだまだ伸びると予測されています（図2）。自身の想定を更新していかないと、差は広がる一方なのです。

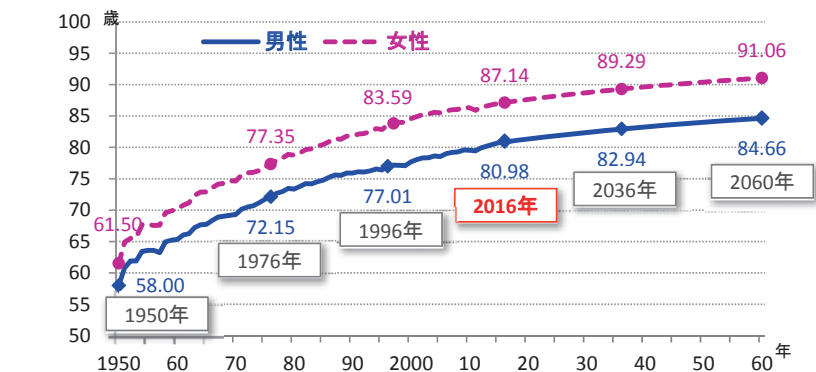


※1) 「考えられない」と回答した人(全体の35.6%)を分母から除いている。

※2) 平均年齢は、具体的な年齢を回答した人(男性2,333名、女性887名)の平均値。

出所) ダイヤ財団「40代・50代正社員の退職・引退に向けた意識に関する調査」(2017年)

図1 人生設計としての“想定寿命”



出所) 2016年以前(実績)は厚生労働省「簡易生命表」「完全生命表」、2017年以降(推計)は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(2017年4月)」をもとに作成

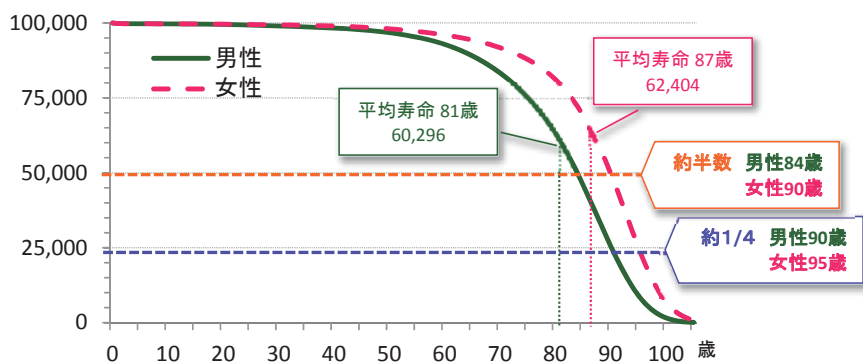
図2 日本人の平均寿命の推移

## 4人に1人が生きる年齢——男性90歳、女性95歳

もう少しデータを見てみましょう。「簡易生命表」には、平均寿命や各年齢の平均余命のほかに、生まれた10万人が各年齢まで何人生存するか、という数字も記載されています。それをグラフに描いてみると、図3のように、できあがった生存曲線は60歳頃まではほぼフラットで、男性は63歳、女性は72歳まで9割（10万人のうち9万人が生存）以上をキープしています。

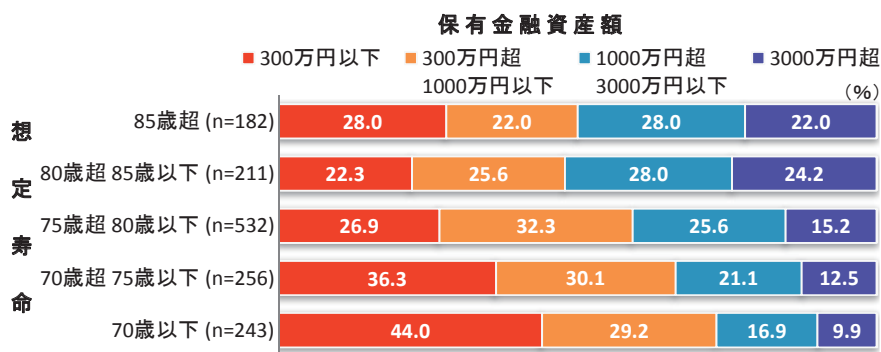
生存曲線はその後徐々に下降していきませんが、ここでまず注目したいのは、平均寿命の年齢では男女ともこの数字が6割を上回っていること、すなわち平均寿命まで生きない確率は4割未満ということです。生存確率が初めて5割をきる年齢は男性が84歳、女性は90歳で、男女とも平均寿命を3年ほど超えているのです。

さらに、特筆したいのは4人に1人が生存している年齢が高いこと。男性は90歳、女性は95歳です。「25%」は



出所) 厚生労働省「平成 28 年簡易生命表」をもとに作成

図3 生存曲線



出所) ダイヤ財団「40代・50代正社員の退職・引退に向けた意識に関する調査」(2017年)

図4 想定寿命別 金融資産保有額 (50歳代男女計)

十分に想定すべき確率だと私はと思いますが、皆さんはどうお考えでしょうか。

## 現実を見据えた寿命を想定したライフプランを

私が想定寿命にこだわるのは、それがその人の老後のライフプランニング、より具体的にいえば、老後のための資金準備に影響すると思われるからです。

図4は前出のアンケートの50歳代男女の回答結果から、想定寿命と現在保有している金融資産額の関係を見たものです。80歳を超える寿命を想定している人の約半数が金融資産を1,000万円超保有しており、3,000万円を上回っている人も2割強を占めるのに対し、70歳以下の寿命を想定している人で1,000万円を超えているのは4人に1人ほどにすぎず、4割以上の方が300万円以下だと回答しているのです。

生涯現役といった言葉も聞かれますが、体力や健康面、

さらには雇用環境の面からも、勤労収入を生涯にわたって得続けることは難しく、いずれは資産の取り崩しと年金に頼る生活になる人が多いでしょう。豊かな老後を最期まで続けるには、超長寿社会の現実を見据えた寿命の想定と、しっかりした老後資金準備が大切ではないでしょうか。オレは長生きしない……には何の保障もありませんから。

※本稿で引用した「40代・50代正社員の退職・引退に向けた意識に関する調査」結果はこちらでご覧いただけます



<http://www.dia.or.jp/disperse/questionnaire/>